
ひぐらしのなく頃に～心迷い編～

夜空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひぐらしのなく頃に～心迷い編～

【著者名】

夜空

【あらすじ】

昭和58年6月の惨劇を回避する事の出来なかつた梨花達は時間をループさせ新しい離見沢へとやつてきた。

この世界では惨劇が起きることなく綿流しのお祭りを過ぐすことが出来た。

そして惨劇を回避出来たと安心する梨花に今までとは違う新たな惨劇が…

(注意) この物語の中の鷹野三四は悪人ではありません。そして古手梨花は原作より若干能天氣です。

初めて小説を書くので上手く書けるか不安もありますが頑張るので宜しくお願ひします。

感想などあつたら是非是非お願ひします！

昭和58年6月…

「この100年の間一度も回避出来なかつた富竹と鷹野の死… そして古手梨花の死… そのどちらも起きず、仲間の誰もが「疑心暗鬼」に囚われる事なく綿流しが終わつたなんて… フツ こんな世界が在るなんてね。このままいけば昭和56年6月の壁を越えられるかもしれないわよ羽入！」

そう言いながら沙都子の布団を直す梨花の顔はとても嬉しそうだった。

「あうあう… でも梨花… こんなに平和な世界、なにか違和感を感じませんか？」

「フフツ相変わらず心配性ね羽入。もう綿流しが終わつて3日も経つているのよ、私が見る限りこの世界には仲間たちが「疑心暗鬼」に囚われる要素は見当たらないし、何故だか解らないけれど今までの世界で感じていた死が迫る恐怖を感じないのよね。」

「でもでも梨花！今までの世界では必ず梨花のことを殺す人が居ましたのです… そんなに簡単に安心しては危険なのですよ…あうあう…」

「バカね羽入。今までの世界で私を殺してきた犯人は必ずオヤシロ様の祟りに関連付けて私を殺してはいたはず。だからこの世界で私を殺そうとしている人物が居たとしても来年の綿流しまでは私に手を

田代なこはさぶる。」

「でもでも梨花ッ！」

「ううん…梨花あ、こんな夜中にどうつかしましたのー？」

「何でもないのですよ。」

「沙都子が起きてしまったかの話はもうおしまいよ。」

そう言って話を切り上げた梨花は布団に入り眠りに就いた。

昭和58年6月某日曜日…

「「ひなむかせーー園崎です。婆ひなちゃんのお使いでできました。」

「はーー」

その返事の後に顔を出したのは公由家の親戚筋に当たる夏美だった。

「あれー 夏美ちゃんーーいつこひなちに来たのーー？」

「昨日の夕方からひなむかせーーに来たんだあ」

「やうなんだーー都會暮らしまじうよーー楽しーー？」

「うんーー友達も沢山出来たし結構楽しくやつてるよ。この前もその友達に連れて行つてもらつたホビーショップがあつて…あつーーそういえば魅音ちゃんゲームとか好きだつたよね? そのお店珍しいゲームとか色々有つたから魅音ちやんきつと気に入ると思つよーー」

「珍しいゲームかあ… 良いねえーーおじさんとしては是非ともお皿にかかりたいねえーーー」

そう言うと魅音は「ヤコ」と笑つた。

「良かつたら今度案内するよ。いつがいいかなあ?」

「うーんやうだねえ… あれ? 夏美ちゃんはこつまでもひなむかせーーの話題ばかりひなむかせーーに聞こえてるの

?

「明日のお昼頃には向こうに帰る予定だよ。」

—そっか！じゃあ明田おじさんも一緒に行くうかなー！

えー!? 魁音ちゃん学校は?」

「……………」それは大丈夫だよー！！！」

四

「 とにかく事で明日の授業は午前中までです。間違えてお弁当は持つて来ないで下さいね。あつでもカレーならこゝりでもOKですよ。」

「はい！」

「では歸れん、わもうなら。気を付けて帰つて下さいねー」

「よーし！部活だあーーーー！」

「今日の部活は一体なにをするんですの？」

「ボクはなんでも頑張ります。」にばー「

「そうだねー今日の部活は...」

「ねえー 魅いちゃん、今日の闘ゲームはちょっと趣向を変えてやる
つていつのばどうがな?かな?」

「ん? 趣向を変えるってどんな感じに?」

「えっとね、例えばビリになつた人が部活メンバーの誰かに告白したりデートするの！」

「うーん……なるほど！ それは面白そうだね！！」

「ち、ちょっと待てよ！ それじゃ男の俺は勝つても負けても罰ゲームみたいになっちゃうじゃねーか！」

「それは違うのです、圭一。レナは魅了に咲田するかも知れないし、ボクは沙都子にするかもなのです。女の子同士で一ヤー一ヤーなのですよ。」

なる風景……それはそれでおいしいのか、いやでも……うん」

「圭ちゃんの」とはめりといて…うん、いいねー！その提案！…じやあ今日の罰ゲームは明日の午後ビリが部活メンバーの誰かとテートするってことで決まりだね！」

1 時間後

「ベセウ……」

「あいあい、 今日の罰ゲームも圭一さんで決まりますね。 わーほほほーー。」

「圭一は良く頑張ったのですよ。 でも今日の圭一はこいつもよう眞面目の入りかたが違つたのです。 かわいそかわいそなのです。」

「確かに今日の圭一ちゃんはスマカつたかなーかなー。」

「くわくわく……これくわくでスマになんて言葉は聽きたくないなあーー。」

「あいあいあいあい……みんなの罰ゲームの相手を決めてもいいのかー。」

「うー……じ、じやあレナで……」

（あいあいあいあい……これじやおねえの乙女心が……まあ私としては「これはこれでもかしごこですナビ……」）

「はーーけ、圭一くんはレナ、レナでこーのかな?かな?」

「ああ。 レナでこーんだよー。」

その日の夜

「おーい礼奈、 前原君から電話だぞー。」

「はーい」

「あー、圭一君? うん! 上手くいったね! 後は梨花ちゃんと沙都子ちゃんに例の計画を話して協力してもらうだけだね! だね! うん、うん、そうだね。わかつたよー! じゃあ今から梨花ちゃん達に連絡しておくね! うん。じゃあまた明日ね。」

「もしもし、梨花ちゃん? あのね実は」

（うーん… 昨日は結局帰りが遅くなつて詩音と連絡取れなかつたけど大丈夫かな…？ とりあえず今日は上手く話を合わせておいて詩音には帰つてから聞くかな？）

「おはようー。魅いちやん。」

「あつおはよー！レナ！實にいい朝だねー！」

「なんだよ魅音。そんな近所のおばさんみたいな朝の挨拶は！？」

「あれ、圭ちゃん見たの？」おじいさんは返答がなかつた。

「嘘つけ！お前気付いてただろ！」

「んー? 何の事を言われてるのか解らないなー」

「あははーー一人共本当に仲良しさんだねーだねー。レナはちょっとびり嫉妬しちゃうよ。」

「まったくレナは一体なにを聴いていたんだ？」

「あはは！ 魅いちやん照れてるのかな？ 照れてるのかな！」

「たぐつ！おーいお前らそろそろ行かないと遅刻するぞー」

そして朝の挨拶を済ますと圭一達は走り学校へと向かった。

「ねむー！」

「畠さま方。お待ちしてましてよー。」

「… 任せね。」やこおんなのです。」

梨花ひせん、沙都子せん。

おはよう!! 沙都子、
梨花ちゃん!! 今日も早しな!!

そんな事より、主にさくらの田の元へ、その一定は済めて来ました。

「ああ……それは」

「えええええ！でで、でえとおおー？？？」

「どういたしましたの？魅音さん…？昨日の部活の罰ゲームは少し趣向を変えてビリの方が部活メンバーのどなたかとデートをすると

「ああ、うそー、やつ、やつだよー、こやーおじれさまだりよつと寝ぼけ
てたよーー、あつせませー。」

（むつーー詩音のヤシリーなに考えてこのよーーーー、おひやん誰と
トーリーするのかな？）

「たぐつ。大丈夫かー魅音？。」

「大丈夫に決まつてるじやんー、そんな事よつトーリーでござへのやー。
？」

「ああ、昨日の夜考えてたんだが、やつぱり離見沢だとやるじと
限られけりかうかうかとおもてたよつて思つてゐ。」

「へーー、わかつてゐじやん、おひやんー、やつぱり離見沢は暮いりや
は最高だけど、トーリーするにせば然しかりなーわー。」

「まあそんなんじいのだー。」

「はーー、歸れんー、席に着つてトドケーー、授業を始めますよーー。」

「　　せー二　　」

「　　では昨日連絡をしたよつて今日の授業はいじままである。おひやん
気を付けて帰つて下れこね。」

「ええええー。」

「どうかしましたか、委員長さん…またかお弁当を持って来てしましたのですか？」

「う…」

「それは困りましたね。カレーだつたら私が是非とも頂くんですが…仕方がないなこのでおうちに帰つてから食べて下さ。」

「は…」

「ではまた、おうな。」

「… るよつなら。」

「魅にちやんと今日まだひつひつたのかな？かな？」

「今日の魅にはまるで二つもの圭一のよつなのですよ。かわいそかわいそなのです」

「う… おじさんとしたこと…」

「なんだ魅音…今日ま一日寝ぼけてたんじゃねーか？」

「魅音さんでもここの初歩的なミスなさるのですわねーおーまつま

「…」

「今日は部活もないんだし大人しく家に帰つてゆっくり休むんだなー…覗ゲームの報告は明日じつへつ聴かせてやるからよー。」

「やつだねーおじさん今口はゆっくり休ませてもいいつよ。」
(早く帰つて詩音に昨日の事を聴きたいし一度良かつたーー)

「では歸れま方わたくしたちは失礼させていただきますわ。」

「また明日なのです。」

「おつづき入共また明日なーー」

「梨花ちひるん、沙都すずちゃんバイバイーーまた明日ねーー」

「それじゃ俺達も帰るとすのかーー」

「やつだね。圭ひかるも色々とおじいだやつしねーー」

「じやあ魅にちやん、また明日ねーーしつかり休まなきやだめなんだ
よーー」

「やつだねー、魅音。間違えても遊び歩いたりはするなよなーー」

「はーはーーーじゃあまた明日ねーー」

「おうじやあなーー」

「バイバーイーー！」

「ふう…これで魅音にはバレる事なく話しあいが出来そうだなーー」

「せうだね。梨花ちゃん達との待ち合わせ場所は興奮の図書館だよ。

「

「じゅあ俺達も着替えてすべく向かつかー。」

「じゅあ着替えたり圭一くんのおひな迎えに行くなー。」

「ねーひーひー後でなー。」

（はあー今日はバイトも休みだし暇ですね。ふらりふらしてこらのも
疲れるだけだし隠れ家の食料品を買い出しにでも行きますか……あ
れ？ そこに居るのは圭ちゃんとレナさん… あー、なるほどー昨日
の覗ゲームの。面白そうだしちょっとからかに行きますかー。）

「ハローワン。圭ちゃん、レナさん」

「つーし、しお、詩音？」

「あつ詩こひやんー」とひやん

「おー人だけで何をしてたんですかー？ おなかで」とですか？

「いやー部活の覗ゲームなんだよーーー詩音いわいこんな所でどうした

んだよ？」

（くそつ忘れてたぜ！興奮にまじいつが居たんだつ…マズイぞ、このままだと付いて来かねない…なんとかしなくては…落ち着け！クールになれ！クールになるんだ前原圭ーーー）

「へーそつなんですかー！なんだか楽しそうですね。私はバイト休みなので暇してたんですよ。ようしければ是非私もこ一緒にしたいです！」

「すまんが詩音。今日は罰ゲームの内容が“デート”“う事だから一人で色々と、本当に色々としなくてはならないんだ。」

「うんそつなんだあ、ごめんね詩いちゃん。レナ達も罰ゲームじやなかつたら良かつたんだけビ……」

「あちやーそつですか…それは残念です。でもそつ言つ事なら仕方がないですね。おー一人の邪魔をするのも悪いので今回は諦めます…」

「本当にじめんね、詩いちゃん…また次の機会にでも皆で遊ぼうねーーー！」

「じゃあ俺達ちよつと先を急ぐから…またなー！」

「はい。おー一人も存分に楽しんじやつてくださいねーーーつてもうあんな遠くに行つちやつてます。」

「け、圭ーくん…もう大丈夫なんじやないかな？かな？」

「はあはあ……あ、ああ。それにしても危なかつたぜ。もう少しで計画が失敗するところだった。詩音が興宮に住んでる事をすっかり忘れちまつてたぜ」

「そりだね。でも詩いひやんも上手く詰魔化せたし待ち合わせ場所まで急がなきやだねー。」

「お、一、じゃあ、戻るか？」

「うん！」

「お一人共々！お待ちしてましてよ～！」

「……いんにちばーなのです。」

「おーう！待たせたな二人共！」

「遅くなつたかな? 梨花ちゃんたちは今来たの?」

「着替えてすぐに来たので、だいぶ待つてましたですよ。」

「それは悪い事をしちゃったね。来る途中で色々とあって、」

「圭一では仕方ありませんですよ。」

「ちょい待て。…俺が悪役になりや丸く収まるのかよ！？」

「もちろんー圭ー せんでなくては務まらない大役ですよ? お一つ
ほつほー!」

「実に嫌な大役だな。こんなので丸く収まると思ったら大間違いだぞ！」

そう言うと圭一は沙都子の頭をポカポカと叩き始めた。ポカポカポカポカ…！！

「さ、沙都子ちゃんが泣いてる！－はう～お持ち帰り～～！－－悪い人はレナがやつけてあげるからね～～～～！」

レナは沙都子の泣き顔に狂喜して頬擦りし、梨花ちゃんは倒れてい
る圭一の顔面をなでなでしている…。

そして、戯れている四人の事を見つめるひとつの陰がそこにあつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4667ba/>

ひぐらしのなく頃に～心迷い編～

2012年1月14日22時53分発行